

# OpenAI内部メモ流出に関する調査レポート

Manus

## 1. はじめに

本レポートは、2025年11月22日前後に報道されたOpenAIの内部メモ流出を発端とする一連の事象について、その背景、影響、および将来展望を多角的に分析・考察するものである。提供された記事と関連情報を基に、技術的、戦略的、組織的、そして経済的な側面から深掘り調査を実施した。

## 2. 調査結果の概要

2025年11月20日、The Information誌が報じたSam Altman CEOの内部メモは、OpenAIが直面する深刻な危機を浮き彫りにした<sup>1</sup>。メモは、競合であるGoogleの技術的躍進（特にGemini 3）を率直に認め、社内に「rough vibes（厳しい状況）」が漂い、「temporary economic headwinds（一時的な経済的逆風）」に直面していると警告するものであった<sup>2</sup>。

この背景には、単なる競争激化だけでなく、OpenAI自身の技術的・戦略的な行き詰まりが存在する。特に、次世代モデルGPT-5の開発過程で直面した「スケーリング則の限界」と事前学習（pre-training）の失敗が、今回の危機の中核にあることが明らかになった。これに対応するため、OpenAIは「Project Shallotpeat」と名付けられた新モデル開発に着手し、短期的な競争劣位を覚悟の上で、より野心的な長期的研究開発へと戦略の舵を切ろうとしている<sup>3</sup>。

本件は、AI業界の覇権を巡る競争の転換点であると同時に、巨額の投資が先行するAI開発のビジネスモデルそのものの持続可能性を問うものであり、一時的な停滞ではなく、構造的な危機への入り口である可能性を示唆している。

## 3. 内部メモとプロジェクト「Shallotpeat」の真相

### 3.1. 流出した内部メモの核心

Altman氏が2025年10月に従業員へ送ったとされるメモは、OpenAIが直面する三重の苦境を示している。

- 技術的劣勢の承認:** Google Gemini 3が、ほぼ全ての主要ベンチマークでOpenAIの最新モデルGPT-5.1を上回ったという事実を認め、競争上のプレッシャーを社内に伝えた<sup>4</sup>。
- 社内の雰囲気悪化:** 「rough vibes」という言葉で、技術的リーダーシップの喪失や後述する組織問題に起因する従業員の士気低下を示唆した<sup>2</sup>。
- 財務的逆風:** 技術的優位性の喪失が、APIやエンタープライズ顧客からの収益に直結するビジネスモデルの脆弱性を露呈し、経済的な逆風につながるとの認識を示した<sup>1</sup>。

### 3.2. Project Shallotpeat: 失敗からの再起

内部メモで言及された「Project Shallotpeat」は、この危機に対するOpenAIの答えである。

**コードネームの意味:**「エシャロット（shallot）は泥炭土（peat）では育ちにくい」という事実に由来する。これは、OpenAIが自社の既存モデルの技術的基盤（土壌）に、表面的な最適化では解決できない根本的な欠陥があることを認めたことを象徴している 3。

このプロジェクトの目的は、GPT-5開発時に露呈した事前学習プロセスの問題を根本から解決し、新しいモデルアーキテクチャを構築することにある。Altman氏は、短期的な競争で遅れをとるリスクを冒してでも、AI研究そのものの自動化といった「非常に野心的な賭け」にリソースを集中させることで、長期的なブレークスルーを目指す戦略を打ち出した 3。

## 4. 技術的敗北か、戦略転換か

今回の危機は「戦略転換」という側面を持つが、その根底には深刻な「技術的敗北」が存在する。

### 4.1. スケーリング則の限界とOpenAIの誤算

AIの性能向上の指針とされてきたスケーリング則（モデルサイズやデータ量を増やせば性能が予測可能に向上する法則）が、高品質な学習データの枯渇という壁に突き当たり始めた 5。OpenAIは、この事前学習のスケーリングに限界が来たと判断し、モデルが推論時により多くの計算を行う「推論モデル（reasoning models）」へと戦略的にシフトした。しかし、この判断は誤算であった。

### 4.2. Googleの成功が示す「事前学習の復活」

Googleは、事前学習が限界に達したという通説を覆し、アプローチを洗練させることで依然として高いリターンが得られることをGemini 3で証明した 3。Gemini 3は、優れた事前学習と高度な推論技術（Deep Think）を統合することで、OpenAIのモデルを凌駕する性能を達成した。これは、OpenAIが「事前学習」か「推論」かの二者択一に陥ったのに対し、Googleが両者を統合する、より包括的なアプローチを取ったことの勝利を意味する。

ベンチマーク	Google Gemini 3 Pro	OpenAI GPT-5.1	備考
GPQA Diamond (科学的推論)	91.9%	88.0%	Geminiが約4ポイントリード 4
MMMU-Pro (マルチモーダル)	81.0%	76.0%	Geminiが5ポイントの差 6
LiveCodeBench Pro (コーディング)	Elo 2439	Elo 2239	Geminiが約200ポイントリード 3

### 4.3. 推論モデルへのシフトとその限界

OpenAIが注力する推論モデルは、特定のタスクで高い性能を発揮するものの、Appleの研究で示されたように、問題の僅かな変更に弱いという脆弱性を持つ<sup>3</sup>。これは、モデルが真の汎用的な問題解決能力を獲得しているのではなく、学習したパターンを再現しているに過ぎない可能性を示唆している。さらに、推論に多くの計算リソースを要するため、コスト構造にも課題を抱えている<sup>3</sup>。

## 5. 競合分析：「一時的な逆風」の正体

Altman氏が述べた「一時的な逆風」は、実際にはAI業界の勢力図を塗り替える地殻変動である。

### 5.1. Google：王者の帰還

Gemini 3の成功は、Googleが持つ構造的な強みに裏打ちされている。

- **財務基盤**: 年間3,000億ドル超の収益を背景に、長期的な視点での巨額投資が可能<sup>2</sup>。
- **流通チャネル**: 検索、Gmail、Workspaceといった数十億人規模のユーザーベースへの展開力<sup>3</sup>。
- **垂直統合**: 独自AIチップ（TPU）からクラウドインフラ、独自データまで、バリューチェーン全体を掌握<sup>3</sup>。

### 5.2. Anthropic：エンタープライズ市場の制圧

Anthropicは、セキュリティと信頼性を重視する戦略で、規制の厳しい金融やヘルスケア業界を中心にエンタープライズ市場を席巻している。2025年10月時点で、コーディングAIの市場シェアはOpenAIの2倍となる42%に達し、企業向けLLMの使用率でもOpenAIを上回っている<sup>6</sup>。

### 5.3. OpenAIの市場地位の脆弱性

OpenAIの技術的リードは2024年の6ヶ月から、2025年11月にはほぼゼロになったと見られる<sup>6</sup>。ChatGPTは依然として巨大なユーザーベースを誇るが、有料会員への転換率は4～10%と低く、技術的優位性が失われれば、収益基盤は極めて脆弱である<sup>3</sup>。

## 6. 組織・財務・パートナーシップへの影響

技術的な行き詰まりは、OpenAIの組織と財務に深刻な影響を及ぼしている。

### 6.1. 巨額の資金調達と評価額のプレッシャー

2025年10月、OpenAIは5,000億ドルという驚異的な評価額で資金調達を完了した<sup>7</sup>。しかし、この評価額は継続的な技術的リーダーシップを前提としている。競合に劣後する現状で

は、この評価額の正当性を維持することは困難であり、将来の資金調達に暗い影を落とす。

## 6.2. Stargateプロジェクトのリスク

OpenAIは、MicrosoftやOracleなどと共同で、今後4年間で5,000億ドルを投じる超巨大データセンタープロジェクト「Stargate」を進めている<sup>7</sup>。しかし、このプロジェクトは事前学習のスケールアップが有効であるという前提に基づいている。OpenAI自身がその前提に疑問を呈している現状は、巨額インフラ投資との間に大きな矛盾を生んでいる。

## 6.3. 組織の動揺

2025年を通じて、OpenAIは深刻な人材流出と従業員の燃え尽き症候群に悩まされてきた<sup>7</sup>。共同創設者Ilya Sutskever氏の離脱や、元米財務長官Larry Summers氏の理事会辞任といった出来事は、組織の不安定さを象徴している。内部メモの流出自体が、経営陣への信頼が揺らいでいる証左と言える。

## 7. 専門家の見解：一時的停滞か、構造的危機か

専門家の間でも見解は分かれているが、大方はOpenAIが深刻な課題に直面しているという点で一致している。

- **構造的危機と見る見解:** 経済学者のGary Smith氏は、OpenAIの財務状況（2025年上半期で78億ドルの損失）と、LLMのビジネス応用の限界を指摘し、そのビジネスモデルの持続可能性に強い疑問を呈している<sup>8</sup>。Yale School of Managementの専門家も、AI業界全体の過剰投資が「AIバブル」を形成しており、その崩壊リスクを警告している<sup>9</sup>。
- **一時的停滞と見る見解:** Altman氏自身は、あくまで「一時的」な問題であり、長期的な賭けによって克服できると主張している。また、AnthropicのDario Amodei氏や元OpenAIのIlya Sutskever氏も、スケールアップにはまだ可能性があるとの見方を示している<sup>5</sup>。

しかし、複数の情報を総合すると、今回の事態は単なる一時的な停滞ではなく、OpenAIの技術戦略、ビジネスモデル、組織構造のすべてが問われる**構造的な危機**の様相を呈している。

## 8. 統合的考察と結論

今回の一連の報道は、複数の信頼できる情報源によって裏付けられており、信憑性は極めて高い。Sam Altman氏の内部メモは、AI業界の頂点に君臨していたOpenAIが、重大な岐路に立たされていることを示している。

**結論として、OpenAIが直面しているのは「一時的な逆風」ではなく、技術的優位性の喪失、戦略の行き詰まり、財務的圧力、そして組織の動揺が複合した「構造的な危機」である。**

同社が選択した「推論モデルへのシフト」は、事前学習の失敗という根本的な課題から目を背けた対症療法的な戦略であり、Googleの統合的アプローチに対して脆弱性を露呈した。その結果、技術的リーダーシップを失い、5,000億ドルという評価額を支える物語が崩壊しつつある。

今後のOpenAIの運命は、「Project Shallotpeat」が真の技術的ブレークスルーをもたらし、事前学習の失敗を克服できるかにかかっている。しかし、そのためには巨額の追加投資と、社内の混乱を收拾し、優秀な人材を維持することが不可欠である。AIの歴史における画期的な一章を築いたOpenAIは今、自らの存続をかけた最も困難な挑戦に直面している。

---

## 参考文献

- [1] The Information. "Altman Memo Forecasts 'Rough Vibes' Due to Resurgent Google." November 20, 2025.
- [2] 中央日報日本語版. "アルトマンCEO、AI競争の困難を吐露…「OpenAI、一時的に逆風もある」." Yahoo!ニュース, November 22, 2025.
- [3] Wolfenstein, Konrad. "Project Shallotpeat and Rough times: Sam Altman's internal memo reveals OpenAI's biggest crisis." xpert.digital, November 22, 2025.
- [4] 聞くAI業界ニュース. "【11/23】 OpenAI内部メモ流出、戦略転換か技術敗北か." YouTube, November 22, 2025.
- [5] Vet, Jon. "LLM Scaling in 2025: Pre-training, Post-training, and Test-Time Compute." jonvet.com, November 19, 2025.
- [6] Google. "Introducing Gemini 3: A new generation of models, built for what's next." Google Blog, November 18, 2025.
- [7] CNBC. "OpenAI completes restructure, solidifying Microsoft as a non-controlling partner." October 28, 2025.
- [8] Smith, Gary. "Opinion: OpenAI is AI's leading indicator. Does that make it too big to fail?" MarketWatch, November 19, 2025.
- [9] Sonnenfeld, Jeffrey, and Stephen Henriques. "This Is How the AI Bubble Bursts." Yale Insights, October 8, 2025.